

第2回富士見市いじめのない学校づくり委員会 会議録要旨

【日時】平成27年11月9日（月）14:00～16:30

【開催場所】富士見市民総合体育館 大会議室

【出欠状況】

小林	大熊	塚田	瀬川	長堀
○	○	○	○	○

【事務局】

学校教育課長 指導主事

【次第】

- 1 開 会
- 2 教育委員会あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 議 題（協議事項）
 - （1）報告事項
 - ①平成26年度いじめの認知に係る再調査について
 - ②平成27年度1学期富士見市立学校におけるいじめ等の状況について
 - （2）いじめの積極的な認知について
- 5 事務連絡
- 6 閉 会

【議事】

- 1 開 会
- 2 教育委員会あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 議 題（協議事項）
 - （1）報告事項
 - ①平成26年度いじめの認知に係る再調査について
 - ②平成27年度1学期富士見市立学校におけるいじめ等の状況について
 - （2）いじめの積極的な認知について

（いじめの積極的な認知等について）

【委 員】 やられていたからやり返したという構図もいじめにはあるはずですが。一発殴ったからアウトでは、学校側は納得しないのではないかと。

【事務局】 どこまでいじめとして認知するのか、きりが無いという声も実際にはあります。

【委 員】 東京都の調査では66%の子どもがいじめられた経験を持つとのこと。いじめた経験も含めると77%にもなります。過去にさかのぼるとキリが

ないが、ゼロ件の学校は子どものつらさをわかっていないくらいのレッテルを貼ってもいいのではないのでしょうか。

【事務局】 軽微なことでも認知していくことは大切だと思います。どう対応するかを整備し、しっかりと記録していくのが大切です。また、アンケートが形式的に終わってはならないと思っています。先生に言っても無駄だと思われるようなことはあってはならないと思っています。

【委員】 新たに導入する「いじめ（「疑いのあるもの」を含む）認知一覧表」（様式3-2）は書きやすくなっていると思います。

【事務局】 定期的にプリントアウトしてみんなが目を通すはずですが、記録をとる必要があるのですが、なかなか記録しないのが現状です。この様式3-2に打ち込むことで、記録の癖がつくはずですが。

【委員】 老人ホームでもヒヤリハットの事例を積み重ねています。このように、いくつか溜まる形式の方が関連性も見えてくるのではないのでしょうか。これは担任のみが記入するのですか。

【事務局】 他クラスの先生や部活顧問など、誰でも入力できます。

【委員】 学校の生徒指導部会はどれぐらいの頻度で開催されているのですか。

【事務局】 中学校は週1回開催することが多いですが、学校ごとに違いはありますが、小学校だと月1回程度だと思います。

【委員】 ルールが先にあり、それに従えという文科省の主張はどうかと思います。ただし、認知件数は増加させなくてはなりません。自分の気持ちをわかってもらえた経験があるから相手の気持ちをわかる人になります。教員は一つ一つの気持ちをわかってあげることが大切でしょう。つらさを受け止めてあげること。それをルール化していく。いじめを多く認知している学校ほど、相手の気持ちがわかる子どもを育てているということなのです。

【委員】 アンケートで浮かび上がっていなかったら大問題になります。また、浮かび上がったのに何もしていなければそれも大問題になります。「みなさんはいやなことをされたことがあると思います」という国研の調査を参考にしてほしいと思います。子どもがいじめを訴えやすいリード文にすべきでしょう。

【委員】 Yes, Noではなく、頻度で聞くべきではないのでしょうか。そうすれば全体の2~3割はいじめが出てくるはずですが。無記名にして、別紙を記名式にすれば具体的にその後の指導にもつなげやすいのではないのでしょうか。いじめ問題に向き合うことは、単にいじめだけではなく、子どもと教員との関係、学校づくりの出発点になるはずですが。

【委員】 傍観者をなくすためには、他者の気持ちを理解できる子にならなければなりません。認知件数を上げることは、他者理解できる子どもを育てることにつながるはずですが。教育的な意義はあります。アンケートでは、生徒に秘密が守られる保証が大切だと思います。

【委員】 数は多くてもかまわないと思います。その代り、解消率にはこだわらるべきだと思います。

- 【委員】どんな軽微なことでも大事にして先生方が関わっていくべきでしょう。
- 【委員】「いじめ（「疑いのあるもの」を含む）認知一覧表」（様式3-2）は最初は書くと思います、学校文化でやらなくなる可能性が高いのではないのでしょうか。スクールカウンセラーが関わるとか、関係を考えるべきではないのでしょうか。
- 【委員】多く書いた先生が褒められるくらいのことにはしないとダメだと思います。様式3は関わっている人と手立てを書けるようにしておく、訪問時に指導しやすいのではないのでしょうか。
- 【委員】相手の気持ちがわかるようになるためのアクティビティーを導入すると思います。アメリカのバディーベンチという活動では、その椅子に座っていると誰かが声をかけてくれるそうです。日本では難しいでしょうが、同じような取組を考えられないのでしょうか。
- 【委員】子ども同士がわかることが大切ですが、まずは子どものストレスを先生がわかることが大切です。まずは認知件数をこの十倍ぐらいに上げなければならないと思います。
- 【委員】いじめている子のケアも大切です。担任が毎朝声をかけるとか、すべての積み重ねが、いじめの未然防止につながるはずです。
- 【委員】気持ちを落ち着かせようという意図もあり、朝読書をしている学校も多いはずですが、その時に教員が事務作業をしてはダメだと思います。子どもと一緒にのことをすることに意味があるはずです。
- 【委員】最近はOLのような先生がいるようです。今は家庭訪問も簡略化してきていると聞きます。
- 【委員】問題解決したと聞いたら、大げさに、どうやったんですか教えてくださいと言うと学校は元気になるはずです。不登校解消事例集をSCが書いた市もあります。良い事例を市で共有していくといいと思います。

5 事務連絡

6 閉会（副委員長）